



上越教育大学の取組

産業界のニーズ = 教育界のニーズ（学校現場のニーズ）

- * 発達障害のある子どもたちの支援が最大課題
- * インクルーシブ教育システムの本格導入の時期
- * コミュニケーションの苦手な子ども（学生も）
- * 体験から学びとる「生きる力」の重要性

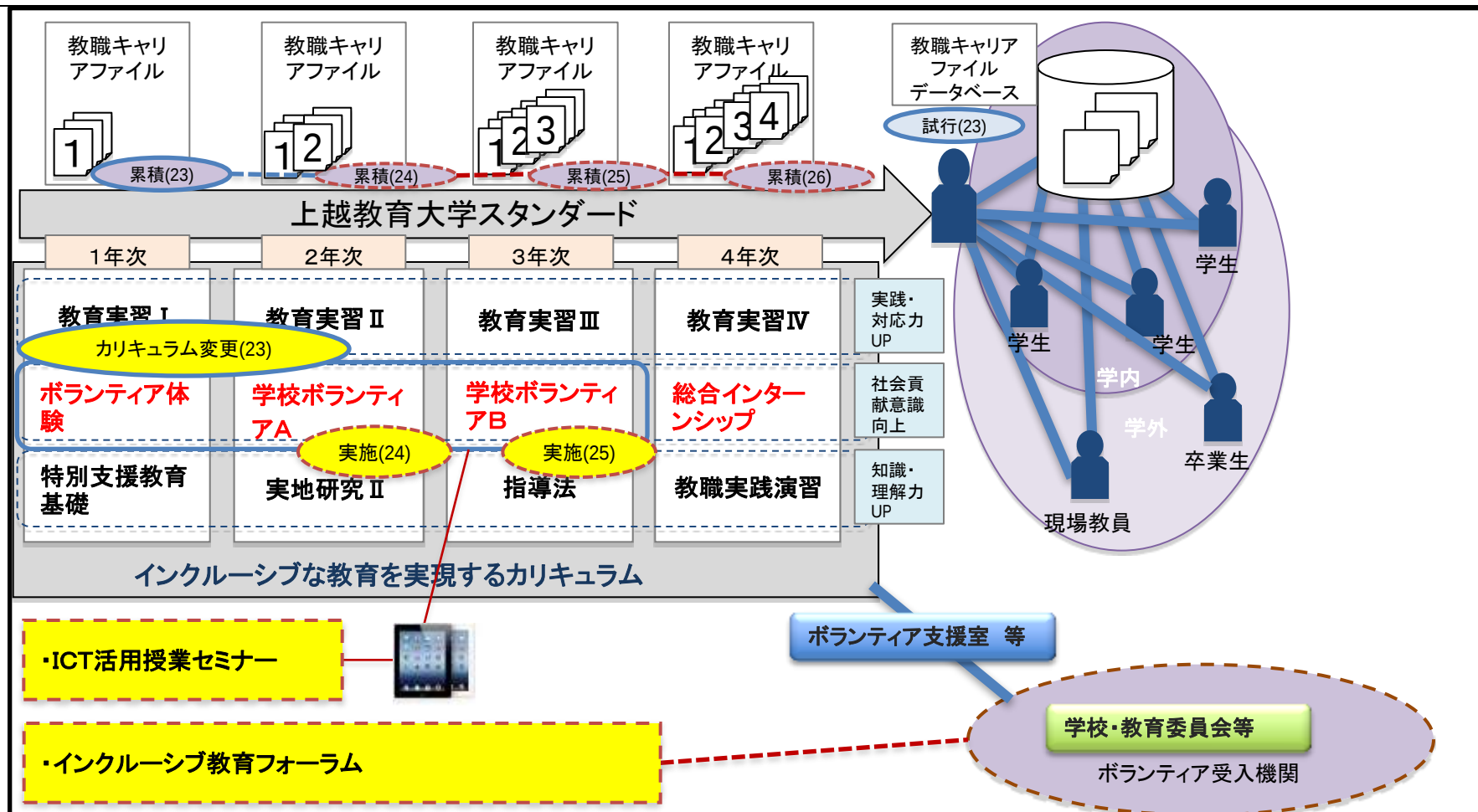
学校現場でのボランティア活動を行うことで

- * 発達障害のある子どもの理解と支援
- * コミュニケーションの力を付ける

産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(関越地域大学グループ)

テーマ3「学生のキャリアパス・キャリア準備性の確立を目的とした教育実践の質向上」

【取組概要】テーマ3を主として取り組む4大学は学生の社会的・職業的自立のため、それぞれの学生の輩出先となる産業界との連携により、「キャリアパス」および「キャリア準備性」に着目し、その共通基盤としてのコミュニケーション能力、専門力、ストレス・コントロール力等を涵養するための教育実践の質向上に向けた取組を行う。そのため、本学は教員養成カリキュラムへの「インクルーシブ教育システム」の導入、ボランティア支援室との連携による、教育実践活動の推進力の育成の取組を行う。

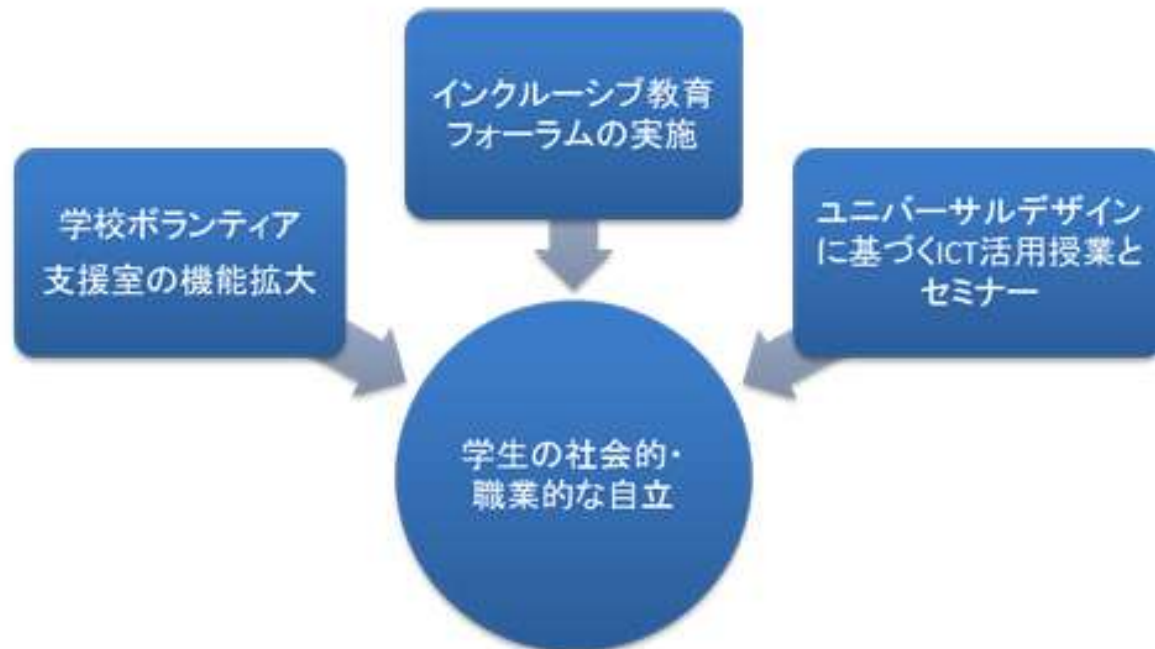


【達成目標・成果等】

- ・上越教育大学スタンダードを達成し、インクルーシブな教育に対しての正しい理解と知識を身に付ける
- ・学校現場での支援ボランティアを通して臨牀的な児童理解ができるようになる
- ・電子的な教職キャリアファイルで自己省察を行えるようになる(ボランティア活動記録の取込)
- ・ICT機器を効果的に活用した教育実践(教材作成方法等)についてのスキルアップを図る

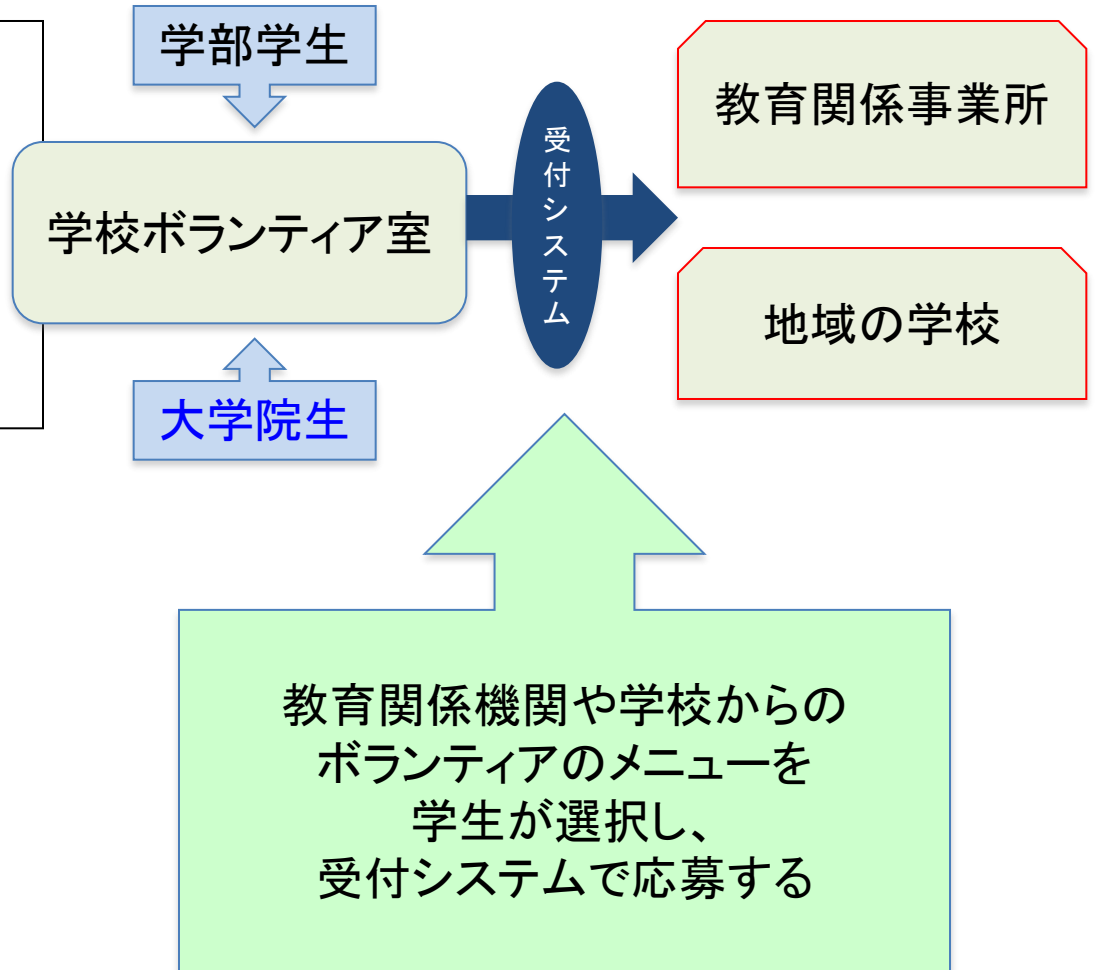
上越教育大学の取組

事業内容



学校ボランティア室の充実

- 1年生のボランティア体験
- 2年生の学校ボランティアA
- 3年生の学校ボランティアB
- 総合インターンシップ
- 教育ボランティア
- 被災地ボランティア



学校ボランティア室の充実

学校ボランティア室



教育関係事業所



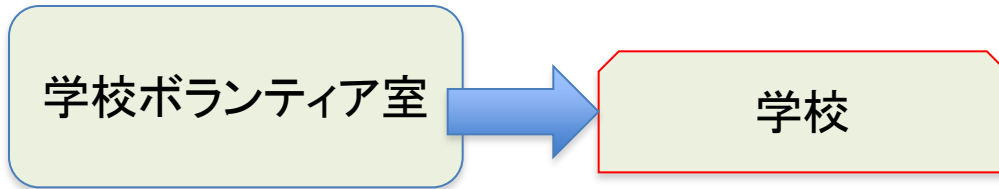
協力事業所からの説明会の様子

上越市教育委員会、妙高市教育委員会、
妙高青少年自然の家、NPOなどから
100以上のプログラムが用意される



いろいろな事業所の方から
ボランティア内容を聞く

学校ボランティア室の充実



学校ボランティアA

- ・2年生必修
- ・大学に隣接する3小学校

学校ボランティアB

- ・3年生選択
- ・地域全域

詳しくは後ほど学生の発表で・・・

「インクルーシブ教育フォーラム」の実施

- 平成25年11月16日（土）実施
- 参加者173名
- インクルーシブ教育の普及と地域理解を深めるために地域の教育委員会指導主事と大学の研究者が意見を交換した
- 参加者アンケートから、授業のユニバーサルデザイン化についての理解が深まったことや参加校の取組に役立つという意見が多く聞かれた。
- また、モデル校の取組から実施に当たっての課題などについての認識が共有された。

発達障がいのある子どもたちの支援とユニバーサルデザイン・ラーニング

上越教育大学 上越市教育プラザ1上越市下門路6331
開催時間 2013年度
対象 上越地域の教育関係者、保護者、地域住民
上越教育大学の学生及び教員

このフォーラムでは、発達障がいのある子どもたちが学校生活を送る中で、どのような困難を来しているのか、学校ではどのように対応しているのか、そして教育者や保護者、地域社会がどのように支援しているのか、などの中核的な課題をテーマとして、実践事例の発表やパネルディスカッション、ワークショップなどを行います。

【インクルーシブ教育とは】
発達障がいのある子どもが学校生活を送る中で、どのような困難を来しているのか、学校ではどのように対応しているのか、そして教育者や保護者、地域社会がどのように支援しているのか、などの中核的な課題をテーマとして、実践事例の発表やパネルディスカッション、ワークショップなどを行います。

平成25年11月16日（土）
9:30～16:00（受付9:00～）

【開会 あいさつ】 上越教育大学 副学長 林 泰成
上越市教育委員会 学務課長 高橋 光夫

【閉会 挨拶】 上越教育大学 教授 石 野正彦

午前の部 / 9:30～11:55
＜上越市におけるユニバーサルデザイン＞
教育モデル指定校実践発表＞

1 1 講演
「インクルーシブ教育システムで教育現場はどう変わる」
新潟県教育委員会 生涯学習課 高橋 光夫

2 2 シンポジウム
「2013年 インクルーシブ教育の取組」
●コーディネーター 上越教育大学大学院 教授 加藤 智文
●パネリスト 上越市教育委員会 生涯学習課 高橋 光夫
新潟県教育委員会 生涯学習課 高橋 光夫
上越教育大学大学院 教授 石 野正彦
上越教育大学大学院 教授 河合 康

3 3 講演
「上越市におけるユニバーサルデザイン」
上越市教育委員会 学務課長 高橋 光夫

【問い合わせ】
上越教育大学 教育支援課学校連携チーム
TEL 025-521-3274 e-mail gpien@juen.ac.jp

上越教育大学
Joetsu University of Education

ユニバーサルデザインに基づくICT活用授業 セミナーとICT支援ボランティアの実施

先進的な取組をしている
小学校の特別支援教室を視察



新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室の
長谷川指導主事を招いて学生のシンポジウム

学校ボランティアAの体験から (地域の学校での授業支援)



本日の学生発表

小林 茜 「個々の子どもに合った対応」

長谷川陽香 「子どもの発言を引き出す力」

白石 優 「子どもに信頼される先生」

小学校ボランティア

上越教育大学2年 小林 茜

【活動内容】

サポート学級（特別支援学級）の補助

- ・一緒にプリントに取り組む
- ・在籍学級での授業の補助

考えることになった児童の様子

少女の様子

〔サポート学級での算数授業〕
平行四辺形、台形の作図が思うように書けない
平行、垂直が理解できない

〔休み時間〕
友だちと楽しそうにダンスをする
友だちにダンスを教えてあげる



【学んだこと】

①教えることの難しさ

- ・自分の考えを人へ伝える

②在籍学級と特別支援学級での違い

- ・教師間の共有

③活躍する場を与えることの大切さ

- ・すべての子どもの可能性を開かせる

理想：個々の子どもに合った対応

つまり・・・

子どもの性格や得意、不得意を理解しそれに応じた教え方、言葉かけができる教師

そのために・・・

- ①子どもがわかる授業の工夫を学ぶ**
- ②子どもと多く関わり、理解する力をつける**

小学校ボランティア

上越教育大学2年 長谷川 陽香

【活動内容】

第4学年算数【少人数】の学習補助

- ・ 問題のわからない子どものサポート
- ・ 解き方のアドバイス
- ・ 丸つけ

考えることになった児童の様子

教師の発問に対するクラスでの反応

[Aクラスの反応] 先生の一つの発問に対してほぼ全員挙手

[Bクラスの反応] 挙手する子と、しない子が半々

[Cクラスの反応] 真剣に課題に取り組み挙手しようか迷っている

[Dクラスの反応] 周りを気にせず、積極的に発言する

【感じたこと・学んだこと】

①発問に対してクラスごとの反応が違う

→・教師の発問を工夫

・児童の反応をこぼさずに拾う

②机間指導を多く取り入れる

→・つまづいているところを把握

・どのような考えを持っているのか記録し

取り上げる発言の順番に生かす

理想：子どもの発言を引き出す

そのために・・・

<学びたいこと>

- ①どのように発問が工夫されているか
- ②児童が発言し、どのように教師が応答しているか
- ③机間指導で教師がどのように対応しているか



小学校ボランティア

上越教育大学2年 白石 優

【活動内容】

算数コース別学習の補助

- ・ 問題のわからない子どものサポート
- ・ 解き方のアドバイス
- ・ 丸つけ

考えることになった児童の様子

A君の様子

[B先生の授業]

**先生の話題に反応。
指名されると答える。**

[その他の授業]

**指示をされても動かない。
周りの友人に促されて解き始める。**



【感じたこと・学んだこと】

①話したくなる先生・授業

→ 子どもが活発になる

②継続的に関わることが大切

→ 様々な人との関わりから見える
子どもの姿の変化

③子ども理解の難しさ

→ 子どもの変化に気づく目を持つ

理想：子どもに信頼される先生

そのために・・・

<今後取り組みたいこと>

- ①子どもの活躍できる授業構成
- ②集団と個に対する対応の仕方
- ③子ども理解

子どもの変化を見つける
子どもの良いところを探す
子どもの言動の理由を考える

受け入れ小学校と学生の声

平成24年度実施「学校ボランティアA」からの声

受入小学校からの意見

総じて、学生ボランティアへの評価は、「助かっている」「今後の受入に期待する」等、良好な意見が多い。特に積極的な活動姿勢や継続的な参加を望む声強い。

①算数の個別指導では、何も言わなくても、自分から何をしたらよいか考え、動いてくれる学生さんがたくさんいて大変助かっています。中には、指示がないと、ただ立っているだけの方もいるので、せめて、「何をしたらいいのか」自分から聞いて動いてくれると助かります。自分から挨拶をしっかりすることも、できている学生と、できていない学生の差があるように思います。子ども達は、学生が来て指導してくれるのを楽しみにしているので、自分から積極的に子どもに関わるよい機会にしてほしいです。

②大きな行事では大変助かりました。友だちと一緒に来て群れになるのではなく、個々が自分から進んで動くという意識があるとありがたいです。

③はじめの頃に繰り返しきた学生が成長（挨拶の声や積極的な動きの面で）するだけでなく、次のサイクルで来た新しい学生にも成長が感じられる。学生同士の情報交換がされているのではないかな。

④4年生のボランティアに来ていただいている学生さんが、15時間の規定時間をクリアしたそうです。

「15時間になったけど、また来てくれる？」とお願いしたところ、快く返事をいただいた担当教諭は喜んで報告してくれました。実際の支援だけでなく、そういう前向きな学生さんの心に、励まされる思いです。

学生の履修記録から

①現場の先生方の教え方、工夫等たくさんのことが学べた。教室の雰囲気や現場の教え方等、先生の授業や言動、対応を見て真似したいと思った。

②集団指導の中でも個人の個性にあった教え方をしていた。そういう教師の引き出しの多さが大切だと分かった。

③勉強に集中させることのむずかしさを感じた。どんなたとえを使っても、どんなに丁寧に教えてもわからない子がいた。順を追う、わからないところを知る大切さを感じた。結局答えを教えている気がした。その子その子に合った教え方ができずにいつも同じ教え方をしていた。自分ができることと教えることの違いが分かった→教育実習で気をつけたい。

④何でも支援すればよいというわけでない分かった。教えすぎ、手伝いすぎてしまった。子どもの自主性を大切にしたい支援が大切。子どもにどこまで自分でやらせたいか考えるようになった。

⑤活動中にどこかに行ってしまう子、歩き回る子、紙を破り始める子等の実際の場面に遭遇した。担任の先生も声を掛けてもだめで、困っておられた。1人で指導するときはどうするのだろうと思った。

⑥子どもに対して厳しい先生（学生にも厳しくて）もいて、先生も様々なこと（複数）。あいさつ、礼儀などの先生の子供たちへの指導が厳しかった。

⑦丁寧な指導が基本だと思っていたが、子ども同士に任せる指導が効果的であることが分かった。

⑧ICT教育が効果的であることがわかった。

⑨信頼関係、そのためのコミュニケーションが大切とわかった。

⑩担任の先生と自分の教え方が違っていたので、子どもが混乱してしまった。子どもたちが分かりやすいようにボキャブラリーを増やす必要がある。教師が信頼されていないとだめだ。

⑪なぜ教員になろうとしたかの原点に戻れる体験ができた。

ご静聴ありがとうございました